

平成23年9月

塩見達志 学位論文審査要旨

主 査 林 一 彦
副主査 山 元 修
同 井 藤 久 雄

主論文

Extramammary Paget's disease: evaluation of the histopathological patterns of Paget cell proliferation in the epidermis

(乳房外パジェット病：パジェット細胞の表皮内増殖パターンにおける組織学的検討)

(著者：塩見達志、吉田雄一、庄盛浩平、山元修、井藤久雄)

平成23年 The Journal of Dermatology 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、乳房外パジェット病において、パジェット細胞の表皮内増殖パターンに関して典型以外の6型を定義・分類した上で、詳細に組織学的に評価し、乳房外パジェット病の進行との関連について検討したものである。その結果、特徴的な表皮内増殖パターンと増殖パターンの多様性は、非浸潤性症例に比べて浸潤性乳房外パジェット病症例に有意に高頻度に出現することを示し、乳房外パジェット病の進行に関連している可能性を示した。本論文の内容は、パジェット細胞の表皮内増殖パターンの組織学的評価が、乳房外パジェット病の進行・病期を把握する指標として有用であることを示唆するものであり、皮膚病理学の分野において、明らかに学術水準を高めたものと認める。